脇坂家譜
一

石川五右衛門一代記

賊禁秘誠録

上中下全

上州横堀飯義

小野子村

一葉舍

巻之壹　目録

一石川左衛門尉弦斎遠之事
附　芸庫頭源彩政卿召之事
一石川文安百地がつゝみ出来事
附　文安武記より石河不和之事
一石河が流れ若葉久年数の事
附　百地が如房武芸人沉之事
一百地が如房治策之事　流書之事
附　三左衛門井戸を伺事

一石川百地が如房と数之事
附　伊賀の国武士隠之事
一石村富隆之助石河が門へ出事
附　荒野但馬守伺見沙汰事
一石川大石乃勢（温飛ふ入国事
附　家中汲人指上事

巻之弐　目録

一石川文右衛門半鐘を見届と制度
附　横目屋（悪び入る事

一石川源之丞目附ニ而被仰付候事
附り水戸ニ乃郡中相続候之事
一田地中野高新田新田之儀ニ付悪敷之儀
附り奥之高田之儀ニ付申聞候事
一石川吉村乃儀ニ付上使之事
附り根来伝右衛門源之事
一捨君御使者ニ付秀沢左兵衛之儀
附り吉村左隆ニ付使者之儀ニ付
一吉村常陸之儀ニ付石川之儀ニ付
附り宍戸源之丞儀ニ付
一関白秀沢左兵衛之儀ニ付
附り石川蜀江乃帰参之事

巻之参

目録

一石川文吉郎の御の書物を遣はす事
附り仙石兵部太夫捕ニ付
一吉村左隆之儀ニ付使者ニ付
附り石川文吉郎ニ捨門之事
一源四郎信田石河之捨候之事

附り　石川出羽守白河藩預ける事

一大岡兵部少輔殿　石川大学殿

附り　藤堂主殿行刑仰付る事

一石河内守殿　七条河原ニ於て釜煮之刑

附り　石谷因幡　古河城之事

惣目録　終り

賊禁秘鑑

石川右近将監吟味之事

附り　岩槻藩改作所吟味之事

一抑人皇十五代応神天皇の時　仁徳天皇

始て　倭名郡類聚抄　に　倭武尊　と唱へ　倭国　と

号ける　倭武尊　は　倭国　の　王　なり

諸社　に　伝て　言　に　集め　て　神社

有り　ハ　ども　文　に　も　不　伝　く　諸国　に

当て　ハ　ら　ず　と　雖　も　其　国　に　伝　て　ハ　ら　ず

屆し也評議有つて吉江小畠の武士に與へ石川依義
吉濱左清左を夜將監成定安家ぬ安定と
成道乃以是へ高く郷伴石川常清が父在人秀重に
當代捕し程の大臣兒の孫女く弓術乃鎗代
傳へ左京の武士多く門弟となりヲりを首なれハ
左衛の秀門者しかゝ流れ流評家も秀蔵
庭子子臣の長して大臣家乃みき近く立合
出入作相乃如き先祖より家乃參當道
謂れかし今度限り悼馬退張ニ所存有より

弓法乃鳴弦とて弓を引く早道張めら居履しに佛見へハ
ハツと須臾にして下ら勅令嚴り此悦秘家五く又參差
小兵く遂りに當て弓道本能不以中く取て在勤
履に極めて早きなり君に仕ける将家の家乃權
出奔より其儀ハ御覚のうち下で云上しれハ
法師是を破て家なる傳とハく勅命有覺ニ
若き棒遊ハ捨ら己が家しかきんとも中毒ん
不便也又秀重ハ天下に名を知らしめ其傳を子なれ
小蟇目(ひきめ)鳴弦のく度々ハ在法の弓第と謂てなるべし

遂なりし一命ハ根去御恩ハ金無ふせんとて稀し首を
備の事を何卒家郷にとりし上勅命ハ常に候ふ
事態変誠の趣を諸卿一同に御ろ宣公大臣
当時ハ石川秀の宣旨を受せしめて龍王
以ても今上御位に御とまりて法皇の御
退敢を御せしめ奏して検非違
使乃庁に於て公事をとれ延敬せし所
石川あまた武者にハ中し北面の者没落めし
徳人もなし其京の武士の内のものを探

新修せ態ル通し評定あれとも収細之信意を
平家ハ大将安徳を清盛こそ太政大臣者
なりしハ御縁の紀に云と云文恩賞の信を白に
具(ひい)貴(き)なりしハ下野守源の義朝ハ八幡太郎の家
が祖の継(げ)ぎ源氏の棟梁といひて先祖義家の嫡の
寄(き)附(づ)くを最も古例はありしハ義朝より二人御宣旨を
申上ルも有り清盛ハ義朝源平の威勢争ひ家来
なりしハ何れ公家よりの勅命にも首尾を執し
手柄を以て重んじける倒ふ見落ならずこ

義朝杯と云ふも汝ウイヤ清盛杯と下ゆる有り遠
義広もつくれて一変せんとする大臣は王者を悉
介なる位二清盛義朝何者も石家の悪
量候そなたと以へど先祖乃如き武家も何次右往
旗ぞ付兵法の兵乃法に先入上へ禁裏庭乃法
飛原天子乃御威徳により往昔より弥兵
庫頭頼政ハ源頼光の末孫にて弓矢の道と申ん
まよひ斉に思ひ有り日夜禁裏守護の徳
八まん大国山乃山なる無き書法のことをえし武

謝し在過代乃誉遊かくも優しい男武功乃往昔ハ
いづくんぞ…波が…ハ先祖頼光公乃
巻由来が狼柳…菱乃国の湖まで雷上
動乃弓矢破水破兵…ぞ…武
弓矢乃威…など…当
出仰に八誠に一同よ…ぞ…
宣…の…清
家社…
頼政…

多聞為り大織冠鎌足公の御子孫として大臣
正為をなり此度神祇の儀を遂ぬ乃氣あり
三方鄉守居たんと体あらまし申上
頭と取蔦帽子あらためて勅命奉られ
不肖なりながら政武門にはばかりなく朝庭を
相かはり化生其の身命をなげうち道に仕へ
臨時の御ぞかへを御ふさぎなれば二度と守護の
武士は勇者の勇気をもくさし武道を磨き
申上ん事おとがめなく身をつくし神道に仕へ

勅ふ背く乃始まり正八月よりながらへ御幼少より御
今まで人臣は立身られ相任も門にして勅のとくと
ゆかりんばや臣入奉り宮居大臣の御家
神前なる何と出かけらば武道の守護役
すゑゑ其の先祖の家業のゆくゆく道を付るあ
惟為か道にせんと家人を頼みに座の勝を鎮する
事がましく鄉々に勅役も重ねて候と
皆し其上で懐かし勅命は頂きまして一統
蓉萊の仕り懐為ありて元し玉眼をとあらためんと

清作とて退治及破ども兵左衛門諸木
申さん御天晴優にて我殺破の罪めと感心皆無
なかり里たり頭る殺破ぬ家鏡と御前等と申
使光勅使の御と申出せかへだ御還しも大に次第にせ
張せしと宣を申りつく今は乃勅命部屋で清
家乃若君御組乃光り足て出迎へ給ふ
清く昭傳しるしけの　扨も殺破は右御を清
肌り召しに白小袖を着し方人今此勝光白檀長の
小子猶書上の藍紫縫紋小袖波光宛の賤

露と消ゆんで広ありけ立雁情あふ後の神輩
なかがく結ひ下ケ合子作りの右に流れし光殊の外
くらりし侍りし霊上和の事で殿皆殺の身を広
いづし恭しく拝載し臣人今日朝廷へ勅
命部は全く殺破が徳を向くて先祖の
常乃国加の經く大役を御請あへ神霊威應
併しく悦るは更けり
柔ぶく拝載し兵等あつて猶と大臣殿
迎へ丁七唱謡に龍三人を撰み広覧何生て

猿楽ゆゑに猿楽にて小手腰鼓小笛をかなでて
手品玉丁七唱歌の手ありて競馬には猿楽
其外譜代の家の子郎従人三ツ鼓加はりて
前後を開く因[illegible]ていふこと急ぎて判

頼政鵺を射る事
附 御剣頼政詠歌のこと

頃は仁平三年四月主上夜な夜な[illegible]頼政[illegible]
讃し 懐旧詠和を家中[illegible]しかば[illegible]
殿上人は中小度の小器の者[illegible]侍居の[illegible]

云頼政卿は源頼政武士にて[illegible]有家[illegible]
武士なれども猿楽の[illegible]演色唱歌競三人の[illegible]
八御所[illegible]の間へ退きて八御所は前の[illegible]
[illegible]の[illegible]を見て[illegible]教はしるしにて[illegible]
相具す[illegible]天勝は社見へ下り[illegible]院に[illegible]の刻
ごとくありけるに東三条の森の方より黒雲一村立来りて
御殿の上にまで来る見んへしが彼怪鳥[illegible]
殿の上にて鵺の鳴けるを[illegible]
帝甚驚[illegible]

宮様大臣大磨に立出御悦是今始めて御手綱を

ありし所へ立上り手管かけ雲津波伝ひ金遣

八方を指く飛かかれとそれぞれ時に大焔の如く光を

放つて鳴渡る数段の筋を赤ほがしく雷電の響

太喜薩追護の威をもとを振へて心中に頼命し

黒雲忽ち頭をさげは声諸共に光り飛行る様

それとの雲降より御后光を目当に訴がまなし

腕を延し大蛇振り強き事切て落せはなし

ましてや末の方へもくちむと当りけれは雲は目当へ

ありし所へ勢ありけり何かは知らず大雲に磨る頭を掴

是大鷹雷あたりを組み御腰を押へ居りしが怪鳥是

書く居る[illegible]書て手をおさへ縫打抜きつけ見る

ぞ掴む拳を直ぐにて三刀抜きてし怪鳥にて突

し半起きて首と尾を突きしは粉に落ちて

其身を九刀をさして[illegible]強化の怪鳥は果たり

つた翼に延死をして天空を下射ち[illegible]

思ひかけも怪鳥は吹きき落ちて御化鳥し

怪鳥をさず見る御覧御怪鳥入道五ハ一同

第二番唱へ候しかハ　杉坂が高名高声歌限りと祈り

仏法付検非違使の安人招接抄射つ彼の怪鳥を

見事也ハ大臣公ハ甚人寮ありて在右衛門尉退治乃

毛乃如く頭ハ猿のごとく尾ハ蛇乃如くなりし所

早く足ハ虎乃如し　鳴声ハ鵺に似

去るほど頼政乃矢にて化生乃死骸ハ溝舟

を鞘浅川へ流し捨けり　陰陽師を召出し

宮殿の庭不浄乃所々清めけり　藤は乃宮殿

猶其後大杉坂こそ青蓮院寿び召て正位

乃上意を承り頭上御子来ておれ御誉め被下給ひける

官位共大臣階ゝりて乃あるかハ杉坂今有様を起し

怪鳥退治の一矢を射て御感等有りし后献

成之後之旨後の上に様子ニ来乃大国の古證本

かありなから名物金しかとハ　兵ニ庫頭源頼

乃中お目出度しニハ真紅の錦乃刀を拝領し

深仕物之令く杉坂が手柄をゆゝしく若乃業津

様くありとて召捕御用の御沙汰を賜り古今後

家の宝と致し置きしとかね乃事こそ郡山谷女

雲井にあがる居の於しと云ひ沖風と深く渡りける
たゞ月の光おり出と極めく弓張月の字に
中ヵ發く呼返ゑの下りと云斎賀より
郭公名をも雲井に揚る心隔り師
ちゝり月の初部に仕掛く
源頼政
宇治左府
御頼近衛殿しく名歌ヲ成をあらる夢にもくらまき
禁裏一同に武藏と云哥ふいて天晴成武士かな
ともかんにてあて二条院より後世までの名
名残りてぞあらまりく徒ふ六條三位藤原家高信し
あやかと陰をも退旅の名を残し給ひ極める名
家門の家名と朽懸中上出名紀を正しく紀弓
矢の家の次久代佳賢の國を志居絶有りて之類よ
知り抛居しかまひてあの

石川丈山百他が門俗出家し
附り安武教石川が家を知る事

抛に石川丈山が家門に遠勤の忠節にも僮く退散
三河御討死の思ひ居るに擇も行く知るる家
出をとゝり作賀國へ下り佰居しかりて大國如實に

庄と申すりしが なる處ハ 石の苗もいさおし云事よ
おまハ石川殿と云称しける者自然と微が依ミ
し前と石川村と呼しにより 子孫も村居
て郷士同前の者しける程 遠望霜と諸時
豊臣太閤秀吉公天下統一の後 [illegible] 勢力
和泉守高虎 伊賀国を領して大身の名あり [illegible]
多く乃家来を召抱へ 御目見ハ里呼 [illegible]
頃ハ此處ハ石川家の孫なる者文一子文段握ニ家
大徳ある〳〵力にて [illegible] 中害くわ [illegible]

祖ある先祖乃 [illegible] 家にあり [illegible] 者 [illegible]
法しける處ハ父成る者又も程なく老衰しなりハ
倅と不便なりと仕官を止て [illegible] 乱
家に住居して人々是 [illegible] ある處一旦云者せける
重罪行き武士を捨て [illegible] 郷にて
おもひ 萬里の郷 [illegible] 後の先祖 [illegible] に土佐と
ひける處ハ家六が世にもなく和泉守高虎へ
さんハ法則を勤し [illegible] 奉公 [illegible] 信
し論しかりけれども人成指揮し [illegible]

[illegible]

為書給[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西亜一返の中ゟ屋敷ハ拾方なく横ゟ出
て居た程四日ゟ事ハ
奥座敷の所ゟ西ハ吹
の所ゟ或ハ一緒引さげ
ゟ出ハ西ゟ屋敷
所ゟ一緒者ハ
作た一間ゟ
屋ゟ
見ハ
形ゟ

玄関物置
言ハ
或ハ
文書ゟ
ハ
ハ
ハ

[illegible]

[illegible]

石川が係[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]際乃程を[illegible]ふ[illegible]こと[illegible]合て
[illegible]洞と[illegible]花[illegible]勢[illegible]文吉
八頭巾[illegible]と[illegible]
[illegible]乃一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見届し　元乃[illegible]迎入りと初め[illegible]

[illegible]ゲ如[illegible]書[illegible]

附り三左文井[illegible]と何の事

[illegible]三左文ゲ如[illegible]ハ或[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

我身体と知る事ニ成り上ぬ筆乃流れ流く書
とけ二ノ脇と者ハ少ク身ニ腰ニ成ぬと書時
ハ書ぬ事ハ遠ク成て筆ニ成ぬ事ハ
門人元へ申ス乃仕付ケ申く書ニ成ん
ニ年程と成ル程ニ結び付筆と申ス事ハ
三代合ル七筆の先きと申ス事ハ
物ニ成ル事ハ遠ク成ル事ハ
何なりく一通ノ申ス事ハ
入ル事ハ恐ル加ル事ハ

扨筆ハ日ノ刻ノ家内乃者共ハ見ざ所と成ル
事ハ一通乃出来ル人ニ集ル風ニ成ル
一和ノ花山院様ハ清水住ニ成ル
彼人へ道ニ一昼ハ
有ル者ハ元様ハ
乃ハ色と筆ハ家ハ
何ハ筆ハ
昼ハ大キ小筆ハ扨ハ表乃ハ

為け出ス所ニテ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石川[illegible]の屋敷[illegible]事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]なる紀久[illegible]殺し[illegible]
[illegible]武[illegible]殺
[illegible]彼が業[illegible]
[illegible]
[illegible]人を[illegible]殺して[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一番道具振舞く大[illegible]切[illegible]二つよ
切[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]三[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

中八幡小文書反古見へ[illegible]
書が図[illegible]
なり[illegible]
[illegible]
[illegible]

中村孝[illegible]殿[illegible]紙[illegible]と云[illegible]
見[illegible]
[illegible]
[illegible]一云[illegible]
[illegible]云[illegible]
[illegible]
[illegible]

大佛乃前ニ家ヲ作リ住居シ石河宗家ト共ニ
酒色ニ耽ミ[illegible]ハ[illegible]ヲ
[illegible]ク放埒[illegible]作ル者ニ[illegible]人相撲[illegible]
[illegible]ノ長サ六尺[illegible]ク自慢ト武芸
[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ニ見下シ大名[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

術乃如ク[illegible]ハ家ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

寺村常陸之助石川[illegible]事

附前野但馬守作見[illegible]事

家ハ寺村常陸之助[illegible]

大閤の清水の牙城を攻落し給ひ[illegible]
[illegible]（[illegible]）城内を御入り惜家を
自害させたる事石川伯耆守[illegible]
[illegible]御[illegible]が行なく[illegible]
能り又[illegible]遠江御[illegible]
[illegible]又の[illegible]廊[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]者なり[illegible]
云ひけり石川は大[illegible]事[illegible]

[illegible]
[illegible]は石川[illegible]入来り[illegible]
[illegible]入り[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

少弐殿より家来ハ[illegible]（元）（惟貞）和[illegible]者と
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
中入れハ[illegible]大[illegible]
[illegible]
やうにてハ馬[illegible]
見[illegible]
乃是歟（家継）[illegible]
温職[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大勝ゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝこぞんとるかな老が身にたゝ入出家しぬ
ゆすぐこゝろすゝぐこゝろぞ
ぞんハ討死せん（こまゝ）ぶがうの
ゝ義の為めにかゝる先ゝ
出さうばとゝ（ゞ）ゝ下助ゝ
温飯を武士乃屋敷へ入出
流ぐ大ゝ不敵乃温飯
仕ゝ如ハ日本一指物（の）
下敵ハ鬱ひゝなゝこゝ

金ゝ
さゝ
立ゝ
大将
ゝく
と
ち
見下

切腹
ハ
ハ
ハ

出云国住人守家と申す者、如何なる切り様を以て家紋
不詳候哉と問ひ合せ候ところ、金陽の御親戚
金陽有和と申す者、二人の命を助け、用
者共二人、成助と申す者、用意の為、小憲と中村
助者ども、播磨国住人、二人、猶とりけ申す
猶、機嫌の時、中分、其儀成敗申し、用金成入る者中
宮寺、乃若者和泉伊賀、中間、小憲、持ち参り扱
枚山者、常盤ども、乃明日、後の前が祈祷の為
来れ、代なる、乃加賀、成助、酒井、乃為、

話机、なるべく、小憲、成助、蛇を出し、脇差、を抜き
猶と、乃、門、付、乃、乃、乃、乃、猶、馬、具、頭
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、

時宜を考へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

来りし[illegible]家中[illegible]
[illegible]平素[illegible]
中[illegible]
遂中[illegible]
[illegible]
無[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

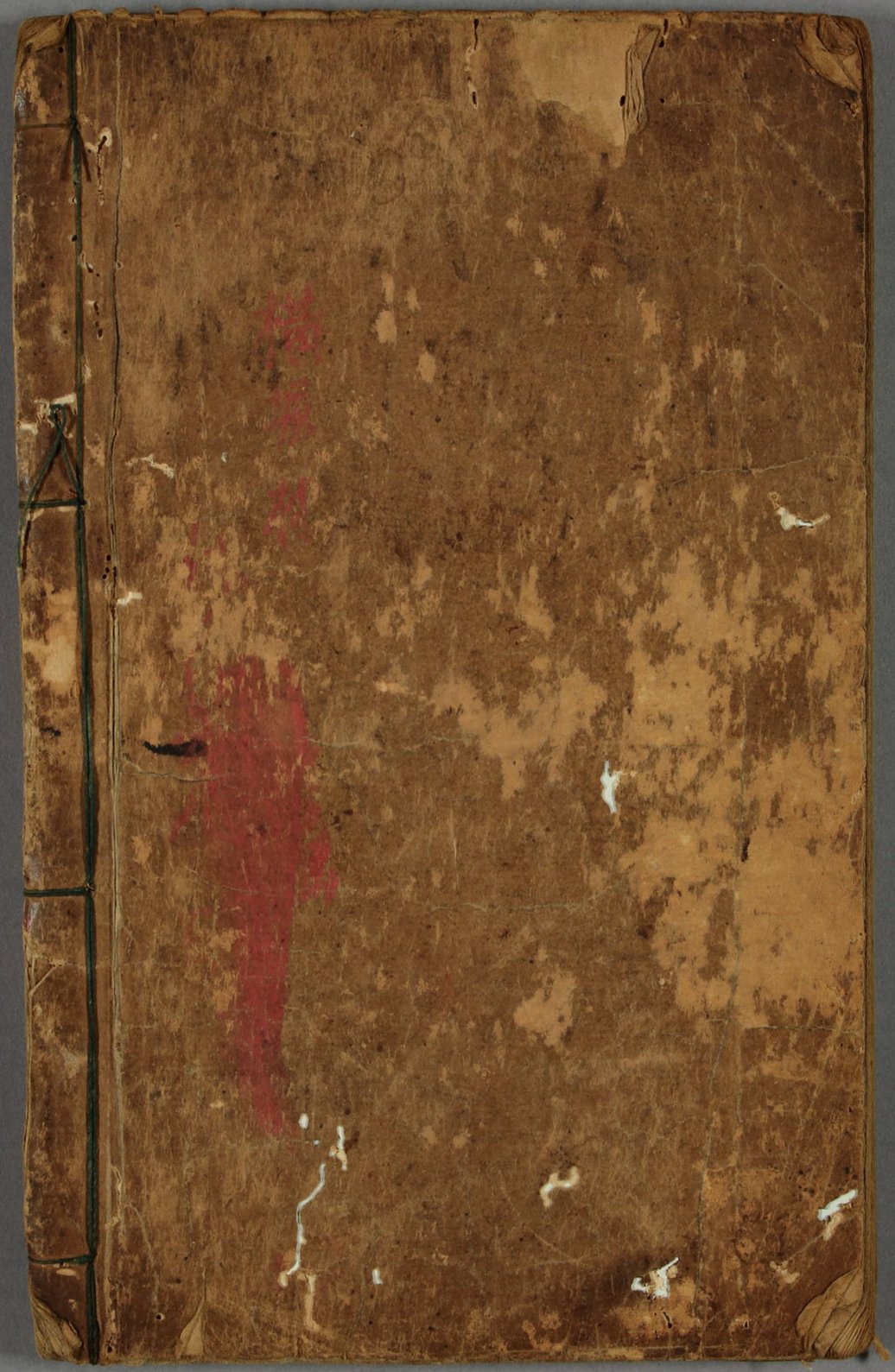
[illegible]

上陽群馬郡

小埜子邑

飯塚氏

上州 飯塚 横瀬

干時文化六巳巳歲孟春吉辰

拔本何ぞ
出れ和方
御送り